Yusuhara hachimangu no Mori

# 柞原八幡宮の森

柞原八幡宮（ゆすはらはちまんぐう）は歴史が古く、参道の石段を上ると左側に国の天然記念物の大クスノキ、神殿（しんでん）の後にはこんもりと茂（しげ）った森があります。この森はイチイガシ・コジイ・イスノキ・ヤブツバキなど、暖（あたた）かい気候に適した常緑広葉樹（じょうりょくこうようじゅ）が生（お）い茂って、今も原生林の姿（すがた）を保っています。煎（い）ると香ばしいイチイガシやコジイのドングリは、石器時代の人びとの大切な食糧（しょくりょう）でした。

## Field Story

東の参道を通って、森の中を観察してみましょう。いろいろな種類の樹木（じゅもく）が空間をうまく利用して枝を広げ、光をとり入れています。うす暗い林の中と光がさしこむ明るい場所では、植物がどのように違（ちが）うかくらべてみましょう。落ち葉の下は小動物やカビ・細菌（さいきん）の仲間がたくさんすんでおり、落ち葉を分解して土をつくっていきます。森林の土はふわふわしたパンのようにすき間が多く、雨水をよく吸収（きゅうしゅう）して大量の水を貯（たくわ）えることができるので「緑のダム」といわれています。